

令和7年度地域公共交通確保維持改善事業
の事業評価について

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月 日

協議会名: 中央市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
山梨交通株式会社 「中央市役所本館～シルクふれんどりい線」	「中央市役所本館～JR小井川駅～山梨大学医学部附属病院～中央市役所玉穂支所～JR東花輪駅～中央市役所豊富支所～シルクふれんどりい」間を運行	<p>【事業評価結果(助言)】 市民ニーズに即した公共交通実現のため、デマンド交通の導入等、本市にふさわしい事業の在り方を検討していく。</p> <p>【反映状況】 令和7年10月よりAIデマンド交通の実証運行を開始。コミュニティバスについては、令和7年11月末に運行を終了することとなった。 デマンド交通実証運行の結果をふまえて、本市にふさわしい公共交通の在り方を検討していく。</p>	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。 A	<p>年間利用者数について R6年度 8,518人 R7年度 9,124人と目標である現状値以上となり、目標が達成された。</p> <p>運賃収支率について 5.9%と目標である6.9%以上を達成できなかった。</p> <p>B 【分析】 利用者数については、年間便数の増加によるものが大きいですが、一便あたりの乗客数も4.6人⇒4.8人とやや増加している。 運賃収支率については人件費等の経費の増額によって、目標値の達成に至らなかった。</p>	令和7年10月よりAIデマンド交通の実証運行が開始され、コミュニティバスについては、令和7年11月末での運行終了することとなった。 コミュニティバスの利用者がスムーズにAIデマンド交通に移行できるよう、運行終了についての周知、実証運行についての説明会の開催など、丁寧な説明が必要である。

事業実施と地域公共交通計画との関連について

令和8年1月 日

協議会名:	中央市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>○中央市地域公共交通計画の基本的な方針</p> <ul style="list-style-type: none">・「交通弱者」の救済・「交通空白地域」の解消・「実現可能」で「持続可能」な公共交通・「広域的な視点」「地域間の視点」「地域内の視点」によるネットワーク構築 <p>○フィーダー系統維持の目的・必要性</p> <p>本市は市街化が進んでいる地区と農村地区があり、両者は一級河川笛吹川で隔たれており、市内間を結ぶ公共交通が必要不可欠である。</p> <p>フィーダー系統を維持し地域内及び地域間幹線をつなぐことで、交通弱者の日々の移動を支える。</p>

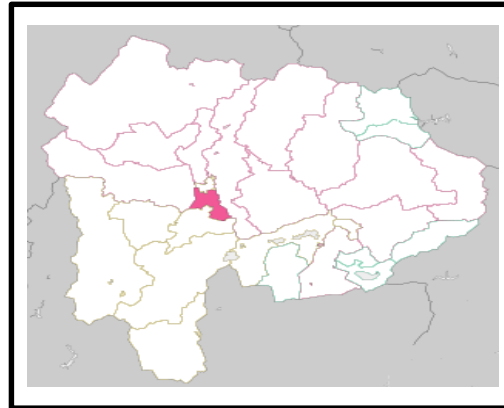
令和7年度 中央市地域公共交通活性化協議会（山梨県中央市） （地域内フィーダー系統確保維持事業）

地域の公共交通等の現況・課題／補助対象系統の位置付け

本市の人口は、平成17年の31,650人をピークに減少に転じ、令和7年4月1日時点では30,425人と減少傾向にある。また、国や県に比べ低い水準であるものの、少子高齢化は確実に進行しており、本市の高齢化率は昨年度から0.46ポイント程度上昇した。

本市の公共交通は、鉄道はJR東海の身延線、山梨交通㈱の路線バスが運行している。高齢者の増加に伴い増える交通弱者への移動サービスの提供を主な目的として、鉄道や路線バスではカバーできていない買い物や通院等の日常的な外出を支える移動サービスとして、補助対象系統である中央市コミュニティバス『とまチュウバス』を運行している。

一方で、依然として自家用車への依存度は高く、『とまチュウバス』の利用者数は伸び悩んでおり、コミュニティバスを利用できていない高齢者等の交通弱者に対する移動手段の確保が課題となっている。



定量的な目標

・年間利用者数を現状値以上とする。

・運賃収支率を6.9%以上とする。

補助対象系統の需要・現況・課題／活用したデータ

当該系統は、買物、通院等の日常的な外出を中心に、JR身延線の東花輪駅、小井川駅に接続しており、通勤、通学の用途でも利用可能となるよう朝から夕方まで7便を運行している。利用者数は日中の便に多く、令和7年度年間利用者数は9,124人と昨年度より増加しているものの、多くの市民に利用されている状況ではない。

年間利用者数は増加しているものの、人件費等運行経費の増額により、運賃収支率は約5.9%と目標値を下回っている。／活用しているデータ:とまチュウバスの利用者数データ、収支データ

目標を達成するために行う事業の今年度実施状況／来年度に向けた取組の検討

公共施設や市内の病院、大型ショッピングセンター、観光施設等に時刻表を配布。

市イベント等における車両展示や乗車体験などの啓発活動を実施。

「家庭の日・青少年を育む日のポスター」特選作品の車内掲示。

転入者に対するコミュニティバスの周知。

当該事業を含めた地域公共交通計画の推進。（デマンド交通の実証運行に向けた準備）

アピールポイント

本市を走る地域内幹線系統は市内を縦断する形で構成されており、旧町村間をつなぐ市内の移動手段として機能している。併せて、JR身延線の市内2駅や民間路線バスと接続し市外への広域的な移動も可能にしている。

多くの市民に親しみを持ってもらえるよう、コミュニティバスの本格運行に際し愛称を募集し、市商工会のイメージキャラクターである「とまチュウ」にちなんで『とまチュウバス』に決定し定着している。

また、歴史上の人物として市にゆかりのある『弓の名手 浅利与一』のキャラクターデザインとともにバス車両にラッピングを施し運行することで中央市のPRにも貢献している。

運行に関しては、一部自由乗降区間の設定や、平成31年度からは平日運行に加え土曜日運行を開始するなど、利便性の向上を図っている。

面積	31.69km ²
人口（R7.4.1時点）	30,425人
15歳未満	3,453人
65歳以上	8,304人
高齢化率	27.29%

交通計画の計画期間

令和6年度～令和10年度

協議会開催状況

（令和7事業年度に係るもの）

- ・第1回（R7年5月23日）
とまチュウバス利用実績報告について
AIデマンド交通の実証運行について
- ・第2回（R7年8月8日）
AIデマンド交通の実証運行について
- ・第3回（R7年12月12日）
AIデマンド交通実証運行の評価・検証について
- ・第4回（令和8年1月●日）
地域公共交通確保維持改善計画事業
事業評価について